

# 「虚偽報告見抜けず遺憾」

## 霧島市長 再発防止を徹底

### 鳥獣駆除 報償費不正

霧島市でイノシシなど有害鳥獣を駆除した際に支払われる報償費に虚偽申請があった問題で、霧島市の前田終止市長は30日、市役所で記者会見し「虚偽の報告を見抜けなかったことは遺憾であり、ご迷惑をおかけした」と述べ、チェックの強化などで再発防止を徹底する考えを示した。【田中韻】

市は虚偽申請が起きた原因について「チェック体制に不備があった」と説明。今後は捕獲した鳥獣の体に番号を直接書くことを義務づけたり、申請時に提出する写真の撮影様式

を統一するなどして再発防止を図る。前田市長は「鳥獣捕獲制度は事業従事者と行政の信頼関係で成り立っている。再発防止を徹底し、事業の成果を確実に上げていきたい」と述べ

た。

市によると、2013～16年度に252件（報償費約241万円）で虚偽申請が確認された。捕獲した鳥獣を角度を変えて撮影し、別の個体として申請するなどの手口で、市の聞き取り調査に、29人が「写真データを紛失した」などと虚偽申請を認めたといい。他に、虚偽申請の疑いがある1人について、市は刑事告訴を検討しているという。